

一般助成 子どもの健やかな成長を願う事業(つながり・かかわり)

「～みんな集まれ世界の子ども～」 『チャイルドアートフェスティバル』開催」事業

在日外国人児童と日本の児童がアートを通じて交流する イベントを開催して、多文化共生の大切さを発信

「絵は世界の共通語」を合言葉に、2008年より「NPO法人国際教育情報交流協会」が中心となり行ってきた子どもの絵の国際交流事業が10周年を迎えた。これを記念して、在日外国人の子どもと日本の子どもがアートを通じて友達になろうというイベントを開催。400人を超える子どもや家族が参加し、共に楽しい1日を過ごした。



「チャイルドアートフェスティバル」を告知するチラシ



イベントには多数の親子が訪れた

10年・10カ国に及ぶ子どもの絵の 国際交流事業の記念イベントを開催

「NPO法人国際教育情報交流協会」が各種団体や有識者などと連携して取り組んできた日本とアジアの子どもの絵の国際交流事業は、2008年の「日中こどもの絵展」に始まり、タイ、韓国、インド、ベトナム、ネパール、ミャンマー、台湾、ラオス、そして2017年10月のインドネシアで、10年・10カ国に及ぶ。

「～みんな集まれ世界の子ども～チャイルドアートフェスティバル」は活動10周年を記念するイベントとして、これまで交流してきたアジアの国々をはじめ世界中の在日外国人の子どもと日本の子どもの交流を目的として企画され、AJOSCの助成を受け2017年12月9日に東京の四谷で

開催された。準備の途上、10年間絵の国際交流に取り組んできたイベント運営委員長の神山充晴さんが急逝され計画遂行に大きな痛手を受けたが、運営委員全員の結束と多くの在日外国人の協力で乗り越えての実施となった。運営委員のひとり、海沼乃扶代さんは当時を振り返る。

「イベントをなんとか成功させようというみんながひとつになり、10月以降はほぼ毎週運営委員会を開いて準備を進めました。運営委員会には中国や韓国、ネパールの人たちも参加してくれました。また、PRチラシやオリジナルTシャツの制作においても、中国・韓国やタイなど『こどもの絵展』で交流してきた国々の協力をいただきました。10年間の活動で築いてきたつながりがイベント開催に向けて大きな力になったと思います」

各国の歌や踊り、日本文化に親しみ 大壁画の共同制作に挑戦

「チャイルドアートフェスティバル」は、「日本インドネシアこどもの絵展」に出品した子どもたちの表彰式で始まり、第1部では、つのだりょうこさん(元NHK歌のおねえさん)の歌に続き、中国の古箏演奏、ネパールやミャンマーの子どもたちの民族舞踊、韓国の小学生のダンスなどが披露された。続いて、子どもたちが一緒に「わたしの生まれたところ」をテーマに大壁画描きに挑戦した。第2部では、陶芸、折り紙、お茶、書道・印鑑など日本文化に親しむワークショップが開催され、また日本、韓国、ネパールのおやつを楽しむことのできるコーナーもあり、大人気だった。当日は中国、ネパール、ミャンマー、韓国、ベトナム、フィリピン、ウクライナなど多くの在日外国人と日本の子どもや家族400人以上

が来場し、楽しく友好を深めた。そして参加した子どもたち全員にオリジナルTシャツがプレゼントされた。なお、同会場には12月9日～13日の5日間、日本とインドネシアの子どもの絵327点が展示された。

「子どもたちの喜ぶ顔は次の活動への力になります。この日の体験がひと粒の種となって子どもたちの中で育ってくれるとうれしいですね」と海沼さん。

法務省によると2017年末時点で国内の在留外国人は256万人と過去最高を更新し、それに伴い外国人児童生徒も増加傾向にあるという。さらに近年は中国や韓国、南米に加え、東南アジア諸国からの在留者も増えている。「次代を担う子どもたちが国や言葉や宗教を超えて交流し相互理解を深めることは、平和で豊かな社会づくりへの一歩となる」とこの活動の意義を語った。



日本とインドネシアの子どもの絵展とワークショップ



参加の子ども全員にプレゼントされた、子どもの絵デザインオリジナルTシャツ

助成団体: チャイルドアートフェスティバル実行委員会



活動10周年の記念イベントを開催することができました

この活動にかけるひとりひとりの思いは強く熱いのですが、思いだけでは前に進めません。10周年の記念となるイベントを開催することができたのも助成をいただけたおかげです。節目の年に国内で様々な国の子どもたちが交流する機会を持てたことは大きな喜びです。今後とも事業の継続にご支援を賜りますようお願い申し上げます。

チャイルドアートフェスティバル実行委員会
海沼乃扶代さん